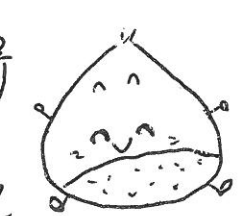


# 10がわのくもの子の会だより

<H.26.9.26>

庭の木の葉もちり始め、秋の深まりを感じます。  
 今年は日照不足のわりには、栗、かき、プルーン、落花生、なし...と  
 実がよくできておるようですわ。美りの秋、食欲の秋で、ますます  
 食欲わいてきて、たべまくりになりそうです。  
 でも、二二ちよい秋もすぐおわり、寒い冬になってしまいうらさうぞ。  
 この時期を有効に、山や海方面と、いろんな自然の場へ出かけて  
 秋の季節を楽しみたいものです。



～ (ほんとうに頭がいい子、賢い子は、早期教育では育たない) ～  
 (体験がなければ、人間は深く考えられない)  
 ほんとうに頭がいい子、賢い子を育てるというのは、どういうことでしょうか？  
 子どもには「深く考えられる人間」になってもらいたいです。少なくとも  
 自分の体験したこと、本で読んだこと、人から聞いた話などを自分の世界  
 にとり込み、深く省察していくということができる人間にはなってほしい。  
 大人になったときに、「あの人の判断は深いよ」と言われるようになって  
 ほしいという事です。

その基本は、やはり体験の豊かさです。  
 体験がない子は、本を読んでもおれり心に残りません。恋愛経験がない  
 と恋愛小説も深く読めませんし、失敗した経験がないから、小説  
 の主人公の失敗に心が痛むのです。4歳でも字を読めれば本を読む  
 ことはできますが、字を読んだだけでは、内容を深く理解することはできないので。

早期教育でできるのは、計算を速くするや  
 ひらがなや漢字の読み書きを速く読めることであり、  
 反応をパッと速くするのを訓練することです。  
 しかし、幼少教育は「深く考えること」の土壌を  
 します。速く反応する子が正しいと思ってしまうと  
 深く考えるのはおこがましいことになってしまいます。  
 本来はものごとをじっくり考えることが人間らしい  
 ことなのに、考えないでさっさと答えを出してしまう  
 ような人間に育ってしまう可能性もあります。  
 その意味で、深い理解ができる子どもを育て  
 るには、早期教育にはできないといえます。  
 (ほんとうに頭がいい子は、体験する  
 ことの豊かさや深さが前提的に大事なのです。  
 人間は促成栽培はできません。促成  
 栽培をしない、おもしろくない人間に育ってしまう  
 かもしれないことを知っておいてほしいのです。  
 それで、早く塾せば早く腐る子も……)

～ 3～6歳能力を伸ばす個性を育てる ～

- ◎ 17(画) は、小さな森のこども園のかりやうで、川尻祭りの馬追いやさかり馬をみに行きまわりの。くもの子の会はおこないます。
- ◎ 11/2(日) は、小さな森のこども園のうんどう会です。園児10名のうんどう会です。みに来たいたただいた方の参加プログラムもありますので、どうぞおこしくください。